

おらんど

JA全農えひめ情報

■特集

生産資材コスト低減の取り組み

■JA直売所めぐり

太陽市 ～JAえひめ中央～

7

2012・July



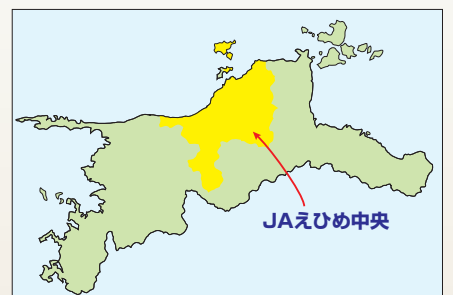
▶「温室みかん作りには、まだまだ勉強が足りません。もっと経験を積み重ねていきたい」。温室みかん栽培歴25年の政岡会長
の言葉は重い



▶選果場では個々丁寧に検査され、光センサー選果機により等級を分け、箱詰め出荷となる



温室みかんの 収穫・出荷 (JAえひめ中央)



「温室みかん」は、温州みかんをビニールハウスで加温した糖度の高いみかんです。伊予郡砥部町のJAえひめ中央温室みかん研究部会（83戸、15ha）の政岡俊一会長のハウスでは収穫が本番を迎えています。

県内では平成5年の最盛期には8,420tを生産。ここ数年は、加温のための重油の高騰や生産者の高齢化などで1,500t近くまで生産量が減少しています。しかし、ハウス内で人工的に最適な環境を作る栽培管理は、高度な技術を要し、高品質のみかんに仕上げていく醍醐味があります。重油の高騰にはビニールの多重被覆やヒートポンプ設置でコストダウンに努めて、産地の維持に取り組んでいます。

県内生産量の約9割を占めるJAえひめ中央では、今年は色づきが早く、やや小ぶりながらも多果汁、平均糖度12〜13度の濃厚な味となり、市場評価も上々です。「農家からも食の提案やおいしさを発信・アピールし、さらなるブランド化と産地の継続を図っていきたい」と政岡会長。今年も9月下旬まで暑いハウスの中での収穫が続きます。

あぐり〜ど

July 2012

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



夕涼みがてら縁日に繰り出せば、くじ引き、輪投げ、射的など、露店がにぎわいをみせています。大人も童心に戻って、本気モードのスイッチが入ってしまうかも!? 男の子はトウモロコシをくわえたまま真剣なまなざしの金魚すくい。「うまくすくえるかな?」ワクワク見守る女の子。省エネの夏は、浴衣姿に下駄ばきで出かけてみてはいかがでしょう? 浴衣の裾を夕風が通り抜けていきます。

●表紙：夏の縁日
はら ふみ(イラストレーター)

※「あぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.139

温室みかんの収穫・出荷
(JAえひめ中央)

2

〈特集〉

生産資材コスト低減の取り組み

組織結集のメリットを発揮し
生産資材コストの低減に取り組む

7

THE・ねっとわーく

8

ふるさと ESSAY VOL.207

夢をかたちに
〜ピンチはチャンス。チャンスは
チャレンジ〜

山下 由美さん

10

TOPIC NEWS

15

なんでもBOX

16

私たちがTACです

産地振興に向け相互圃場研修開催

17

統計BOX

18

JAふるさと自慢Vol.139「直売所めぐり」

太陽市〜JAえひめ中央〜

20

READERS通信

NOW NOW COOKING〈今月の素材〉大葉

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ja-fresh/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

組織結集のメリットを発揮し 生産資材コストの低減に取り組む

J A全農えひめ生産資材部は、第3期「生産・販売・購買一体事業」の取り組みを通じて、担い手等予約結集に基づく結集メリットの価格反映（予約価格対策）のほか、J Aグループ独自品目など低コスト・省力化資材や施設の開発・普及促進等を通じて、生産資材コストの低減と低コスト供給体制の確立に取り組んでいます。

今回は、肥料・農薬、農機、施設・園芸資材、段ボール・包装資材の資材コスト低減の取り組みを紹介します。

【肥料農薬課】

予約結集と低コスト資材の普及・拡大を目指す

肥料農薬課では、第3期「生産・

販売・購買一体事業」を通じて、「担い手予約結集対策」「土壌診断結果をベースにした低コスト施肥防除対策」など、需要掘り起こしと系統結集に努めるとともに、J Aグループ独自商品や共同開発農薬、ジェネ

リック農薬など「低コスト資材の普及拡大」により、生産資材コストの低減を進めています。

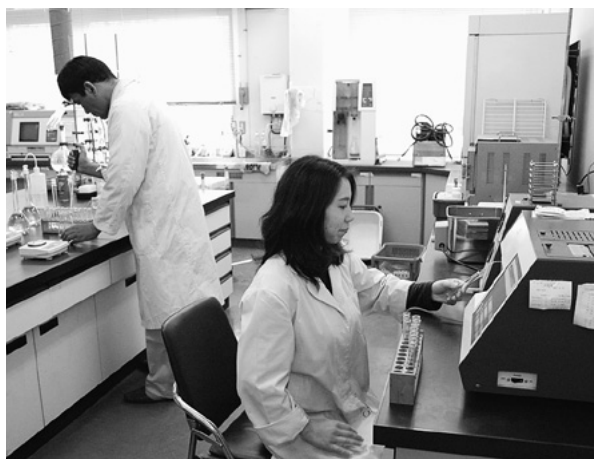
担い手予約結集対策

「統一資材リスト品目」（24年度は、肥料で45品目、農薬では105品目）への銘柄集約促進と予約結集を踏まえ価格値引き額を設定し、予約価格の引き下げに取り組んでいます。

また、担い手を対象とした肥料直

送予約対策、スプリンクラー等農薬大型規格品目対策は、品目を設定し、予約や組織結集のメリットを価格折込みして価格引下げに努めています。

24年度も統一資材リストへの銘柄集約を促進し、予約価格引下げと予約推進フォローによる農家予約率の向上に取り組んでいます。



土壌診断結果をベースにした 低コスト施肥防除対策

担い手に対する土壌診断対策として、土壌診断結果をベースに、それぞれの土壌に適した施肥の提案、有機配合肥料や低成分銘柄など系統銘柄の導入等を推進し、低コスト施肥体系の普及を図っています。

JA全農えひめ土壌診断室では、登録要件を満たした「担い手」に対して、無償で土壌診断を実施しています。23年度は、1,643点を診断し、11JA・44部会に施肥設計等の提案を実施しました。24年度は、

2,300点の診断と13JA70部会の提案を目標に取り組んでいます。

低コスト資材の普及拡大と コスト抑制の取り組み

地域結集銘柄や低成分肥料、JAグループ共同開発農薬、ジェネリック農薬など低コスト資材の普及拡大に取り組んでいます。

①四国地区結集銘柄Ⅱ地域ニーズに対応し、四国ブロックの結集銘柄である「いざなぎ」農援隊への集約・結集に取り組んでおり、23年度は25tの取り扱いでした。24年度は30tを目標に結集を図り、結集メリット

の確保に取り組んでいます。

②低成分銘柄肥料Ⅱ県独自銘柄として開発した「しあわせ化成」「柑橘統一肥料944(粉・粒)」「ダッシュ」「サット粒状」「菌根甘965・655」の普及を進めており、23年度は合計で4,925tの実績でした。24年度は5,000tを目標に推進しています。

③JAグループ独自品目や共同開発品目の普及・推進

低コスト資材として、水稲除草剤では「MY100」「AVH-301」、園芸殺虫剤では「スプラサイド」やジェネリック(特許期限切れ)農薬の「ペンコゼブ」「ジェイエース」など、JAグループ独自品目や共同開発品目の普及を進めています。

④省力型施肥技術の普及 推進

被覆肥料などの肥効調節型肥料による基肥一発施肥や、局所施肥法などの普及拡大のほか、大規模経営を可能とする省力技術の水稲育苗箱全量施肥栽培「苗箱まかせ」な



どの普及に取り組んでいます。

【農機課】

安価な農機の普及めざす

農機課では、JAグループ独自型式と特別仕様機、中古農機、重点型式の早期推進など安価な農機の取り扱い拡大とコスト低減に取り組んでいます。

こうした取り組みは、年1回の県下統一の農機展示会「農機ビッグフェア」やJA等での展示・実演を通じて、普及拡大を図っています。

①JAグループ独自型式と特別仕様機の推進

大量生産機をベースに、担い手が必要とする絞り込んだ仕様としたJAグループ独自型式や特別仕様機を設定することで、価格メリットを追求し、普及に取り組んでいます。

②重点型式の早期推進対策

価格の引き下げを目的に、JAとの協議を踏まえてトラクター・田植え機・コンバインのうち愛媛の農業実態に即した機種を重点型式として設定。需要期終了後に早期推進を実施し、設定期間内に納品・売り上げ

を完了する機種に対して、特別価格を設定しています。

③中古農機の普及・拡大の取り組み

需要のある安価な中古農機の流通促進・活用に向け、情報管理と情報の発信に取り組んでいます。

JA全農では、全国の中古情報共有化に向けて、WEBEOSというシステムを導入しています。現状では、

各JAで保有している中古農機情報を県内で共有化するため、WEBEOSに情報を掲載し、定期的な情報の更新・発信に努めることとしています。また、県内では11JA・17センターの導入にとどまっており、未導入の拠点・センターについては、発生の都度、JA全農えひめ農機課が代行して掲載することで、問い合わせや需要へのスムーズな対応を図ることにしています。

中古農機は、必要な時期・タイムリー性、農家にとって質・価格面で魅力ある農機かどうか問われます。幅広い中古農機情報を掲載し、こうしたニーズに対応していきたいと考えています。

平成24年度は、こうした取り組みに加え、農機レンタルの事業化検討など資材コスト低減につながる取り組みを進めていくことにしています。

【施設農住課】

予約結集対策と

ハウスの低コスト化を推進

施設農住課では、第3期「生産・販売・購買一体事業」を通じた、「農ビ・農ポリ加工品部会予約結集対策」



▶低コスト野菜栽培プラント

周年栽培化の中でハウス加温機は必要不可欠ですが、導入経費が高く大きな負担となっています。また、20型・22型は導入後10年以上経過しており、部品供

③ハウス加温機予約推進

ト低減に取り組んでいます。平成24年度も直売所等でチラシを配布し、利用を呼びかけています。

組んでいます。平成23年度の予約率は69%となっており、平成24年度はさらなる予約率の向上を目指して取り組んでいます。

②施設園芸農家育成対策
農産物直売所では、四季を通して安定した品揃えが必要であり、それには施設園芸は不可欠です。低コストハウスの普及推進を図り、直売所の活性化と施設園芸農家の裾野を広げる取り組みを進めています。

ハウスについては、事前にJ Aと協議し仕様・規格を設定します。推進・取りまとめを行い1J A5戸以上で助成を適用し、ハウス資材コスト低減に取り組んでいます。

J A全農えひめ段ボール工場は、全農グループで全国唯一の直営段ボール工場です。ISO9001の認証を取得した国内有数の設備を誇る工場では、高品質の段ボールを計画的・効率的に製造・供給しており、自前工場の強みを発揮し、資材コスト低減の取り組みを進めています。

コスト低減の取り組みとしては、

【段ボール工場】 予約結集メリットの反映と 低コスト原紙への切り替え

給打ち切りも出てきています。そこで、更新需要の対応に重点を置き、早期予約による価格メリットを打ち出し推進に取り組んでいます。

④低コスト野菜栽培プラントの普及推進
愛媛県農林水産研究所と協力し、「低コスト野菜栽培プラント」の開発・普及に取り組んでいます。野菜栽培をしたことがない方でも、栽培マニュアルに従い管理すれば、葉物野菜の周年安定生産が可能で、小規模面積から安価にプラント導入ができるシステムとなっており、普及推進に努めています。

「施設園芸農家育成対策」の取り組みとともに、燃料費高騰に伴い省エネ対策が求められる中、ハウス加温機の更新需要に対応するため、「ハウス加温機予約推進」による農家負担の軽減などに取り組んでいます。

①農ビ・農ポリ加工品部会予約結集対策

農ビ・農ポリ加工品では、農ビ16品目、農ポリ5品目を重点品目として設定。品目の集約と需要の結集を背景に、部会（組織）の予約購買メリットを追求し、資材コスト低減に取り組んでいます。また、予約メリットを明示し、予約率の向上にも取り



第3期「生産・販売・購買一体事業」の取り組みを通じて、段ボール・包装資材の予約結集メリットを価格反映（23年度実績＝103部会）するとともに、野菜・柑橘の青果物段ボールでは茶箱化と低コスト原紙への切り替えなど、「低コスト・省力機能性資材」の研究開発と普及促進に取り組んでいます。

昨春秋以降、製紙会社は輸出古紙価格の高騰やエネルギーコスト上昇を理由に原紙価格の引き上げを発表し、一般取引先を中心に年明け以降製品値上げが浸透しましたが、JA全農えひめでは原紙の価格交渉など

を通じて、条件確保や製品価格の抑制対策に取り組み、一般取引先に比べ値上げ時期の先延ばし、また22年度に引き続き23年度も価格対策を実施するなど、資材コスト低減を進めています。

また、設備更新等も行いながら、製造コストの削減や効率化に取り組んで

います。

低コスト原紙への切り替え推進

段ボール工場では、段ボール資材のコスト低減対策として、生産・販売部門と連携し、茶箱化とともに強度・輸送試験を実施しながら、低コスト原紙（ライナー）への切り替えを進めています。

① 野菜箱

野菜箱については、19年度から大ロット品目から低コスト原紙（ライナー）への切り替えを順次実施してきました。

22年度以降は、「生産・販売・購買一体事業」の野菜重点5品目（きゅうり・トマト・なす・レタス・いちご）を中心に、その他品目も切り替え可能なものから随時切り替えを進めており、22年度で全体の約43%、23年度では全体の約60%まで切り替えを拡大してきました。

今後も切り替えのタイミングを見ながら、順次切り替えを推進することとしています。

② 柑橘箱

柑橘箱については、関東地区への出荷が多く長距離輸送であることと青

果物の特性を踏まえ、専用ライナー・専用中芯を採用していたことから、従来品を継続使用し茶箱化への切り替えを進めてきました。しかしながら、農業情勢が厳しさを増す中で、一定の課題解決の糸口が見出されたため、21年度より低コストライナーの実用化に向けて、極早生みかんと早生みかんの10kg段ボールで輸送試験に取り組んできました。

23年度は極早生みかんと早生みかんでそれぞれ2JA・2共選で、輸送方法など多様な条件で試験・検証を積み重ねました。結果は、22・23年度と同様に、極早生・早生みかんとともに従来品に比べ遜色のない結果となりました。また、23年度は低コストライナーとあわせて、OPニス試験も実施しましたが、印刷カスレの問題もなく、OPニスなしの方が強度面でも好結果を得ています。

こうした過去3年間の試験を基にデータ収集・分析を行った結果、切り替え可能な状況が整ったことから、24年度より、コスト・品質面の観点から低コストライナーへの早期切り替え・実用化に取り組むとともに、OPニスなしについてもさらなる検証を進めながら切り替えに努めます。

THE

ねとわーく

「平成24肥料年度秋肥価格が決定しました。」

肥料 農薬課

J A 全農は、メーカー各社と交渉を行い、平成24肥料年度秋肥（6～10月）の肥料供給価格を決めました。

肥料メーカーは、設備の老朽化と環境対策への費用増加による採算の悪化、燃料代の上昇等から、製造諸経費の値上げを主張し、交渉は難航しましたが、J A 全農は値上げ幅の圧縮を強く求め、J A 全農の輸入す

る海外原料は値下げ要因を最大限折り込み、主要品目の高度化成は一部値上げとなる銘柄はあるものの、大半の銘柄を値下げとしました。

単肥は、窒素質肥料が据え置き（輸入尿素は値下げ）、磷酸質肥料が硫酸等の影響により値上げ、加里質肥料が値下げと、品目ごとに上げ下げが混在する結果となりました。

(1) 主要品目の価格決定内容 窒素質肥料

分類	品 目	成 分	変動率(%) 平成23春肥対比
窒素質	尿 素 (輸入)	46	▲1.5
	尿 素 (国産)	46	0.0
	硫 安 (大粒)	21	0.0
	硫 安 (粉)	21	0.0
	塩 安	25	0.0
	石 灰 窒 素	21	0.0
磷酸質	過 石	17	1.2
	重 過 石	34	1.2
	熔 燐	20	0.1
	重 焼 燐	35	2.2
加里質	塩 加	60	▲1.8
	硫 加	50	▲1.1
	珪 酸 加 里	20	▲0.4
複合肥料	高度化成 (一般)	15-15-15	▲0.3
	高度化成 (機能)	15-15-15	▲0.7
	普 通 化 成	8-8-5	0.9
	有 機 化 成	8-8-8-3	0.3

※ J A ・農家向けの供給価格の変動率とは一致しません。

据え置きとしました。

③ 硫安は、タイトな需給環境を背景に強い値上げ要求を受けましたが、国産尿素の価格に準じ、据え置きとしました。

④ 石灰窒素は、原料である特殊コークス価格や燃料・電力など製造諸経費が上昇しているものの、市況を勘案するとともに他の窒素質肥料価格の決定内容に準ずることを主張し、据え置きとしました。

(2) 磷酸質肥料

磷酸質肥料製造に使用される硫酸は、震災で被災した硫酸メーカーの生産量減少等により需給が極めてタイトとなったことから、硫酸メーカーは昨春よりユーザーに大幅値上げを打ち出し、この値上げは秋口から年末にかけて浸透しています。

J A 全農が輸入するリン鉱石価格は、山元価格が値上がりする中で、円高を最大限反映して値下げとしましたが、硫酸の値上がりや燃料・電力など製造諸経費の上昇を反映して、過石、重焼燐、熔燐といった燐酸質単肥は値上げとなりました。

(3) 加里質肥料

J A 全農が輸入する塩化加里および硫酸加里価格は、山元価格が値上がりする中、円高を最大限反映して値下げしました。

珪酸加里は、燃料・電力等製造コストが上昇しているものの、メーカーの合理化努力を強く求め、値下

げとしました。

(4) 複合肥料

窒素、燐酸、加里3成分を保証する複合肥料は、燃料・電力等製造諸経費が上昇しているものの、高度化成は輸入リン安など原料の値下げを反映し基準銘柄では値下げしました。

普通化成および有機化成は、リン酸原料となる過石の値上がりにより、基準銘柄では値上げとなりました。

J A グループの取組み

今後も海外肥料原料価格の上昇基調が予想されることから、施肥コスト抑制対策を一層強化していきます。

① 土壌分析・診断にもとづく適正施肥の実施

土壌診断室での分析を基本に、土壌診断に基づいた適正施肥を強化するため、「第3期生産・販売・購買一体事業」の取り組みとして、「担い手に対する無償土壌診断」を継続。

② 低成分肥料および四国地区低コスト配合肥料の普及拡大

低成分肥料「しあわせ化成」や四国地区低コスト配合肥料「いざなみ・農援隊」への銘柄集約を進める。

③ 省力型施肥技術の普及推進

被覆肥料などの肥効調節型肥料による基肥一発施肥や局所施肥法などの普及拡大に取り組む。

④ 安価な国内未利用資源の活用

鶏糞燃焼灰等、地域で発生する安価な未利用資源を原料として活用した低コスト肥料の普及に取り組む。



夢をかたちに

ピンチはチャンス。

チャンスはチャレンジ

農業の副業として始めた農産加工施設「津島あぐり工房」。与えられる事は何でもやってみるというポジティブな考えから引き受けたJA女性部役員。そこから無限大に広がった人脈、知識、経験。組織に関わって広がった私の活動は、今ではかけがえのないタカラモノになっています。

中でも忘れられない貴重な経験は、5年前に突然舞い込んだタイ派遣の話です。「タイ農協におけるコミュニティリーダー育成プロジェクト」にJICA短期専門家として参加しないかというもの。期間は3ヶ月間。嫁、妻、母である私が家を3ヶ月間も空けると言う事。出した答えは「絶対無理」。

しかし、チャレンジすることが好きな私です。全国に点在する悩みながらも前進する同世代の農家女性、そして多感な年頃になった二人の娘に「やれば出来る！」を、身をもって伝えたい。私の新たな挑戦が始まったのです。

期間中派遣された専門家は延べ9人。JA組合員の派遣事例は私が初め

です。「農業、JA女性部組織、津島あぐり工房のことをまとめて、現地で発表できるように」の課題に思うように手も付けられないまま、渡タイの日が近づきます。だんだん不安になる私を見て、「乗り越えられない試練を神様は与えないんだよ。乗り越えられるから与えられたんだ」と夫。その言葉に後押しされ、平成19年6月、いざ、タイへ。

現地空港で出迎える長期専門家のKさんの第一声は「現地の人たちのためになる仕事をして下さい」。不安と心細さが倍増した一瞬を今でもはつきりと覚えています。

長く厳しい3ヶ月の始まりでした。現地の農村部は首都バンコクの生活水準とはおおよそかけ離れ、いわば戦後日本のイメージに近い場所。私と同じように主業を農業とし、農産加工施設等を持ち、副収入を得ている農村グループの底上げが大きな目的です。私は、主に加工施設の衛生管理を指導し、商品のパッケージングについて日本の

山下 由美

YUMI YAMASHITA

昭和40年5月14日生まれ。南宇和郡城辺町（現愛南町）出身。四国女子大学短期大学部卒業。昭和63年、結婚を機に就農。水稲と野菜を担当し、農業経営に取り組む。平成7年、JAえひめ南女性部加入。平成10年、JAえひめ南女性部フレッシュミズ初代会長。以後、JAえひめ女性組織協議会フレッシュミズ部会長、JA全国女性組織協議会理事（フレッシュミズ西日本代表）等を務め、若手リーダーとして活躍。平成15年に農産加工所「あぐり工房」を設立し、地元原料にこだわった味噌、焼き肉のたれを製造。平成19年、JICAのプロジェクトによりタイ国で食品加工の商品開発技術指導にあたる。平成20年、認定農業者。平成21～23年、JAえひめ南の米粉パン専門店「手作りパン工房みなみ」勤務、生み出したヒット商品多数。平成22年よりJAえひめ南津島支所女性部部长。「JA全国女性組織活動発表」最優秀賞、「明日の農山漁村を担う女性表彰」農林水産大臣賞、「女性のチャレンジ賞」男女共同参画担当大臣賞等、受賞歴多数。宇和島市津島町在住。家族はご主人と両親、娘2人。



▲魚肉加工のグループを訪れた時の集合写真。日本人は3人。前列右から3人目が山下さん

事例を紹介しつつ、改善を促します。他と違い、すぐに実践できる分野。テーマがわかりやすい分、ごまかしがきかず、視察先でどのようなコメントを出すか、毎日が真剣勝負でした。

さらに、重くのしかかったのはタイ政府関係者からの強い期待。それに応えようと四苦八苦し、常に落ちこぼれの私でしたが、強みは現地の農家女性と同じ目線でものが言えること。自分の無力さを思い知らされながらも「や

れば出来る」を心の中で繰り返し、知識のなかったエクセル(※1)、パワーポイント(※2)も習得し、思いっけば即行動の私がつくり考え、組み立てて資料化する。今考えても胃が痛くなるような毎日でした。

3ヶ月間の報告書をタイ農業省へ提出し帰国した私に、Kさんからの電話。「報告書が認められマニュアルとして配布されました」。また、「同じ目線です」というところが受け入れられたので



▲タイの農業省の一大イベントにて。日本のたこ焼きを披露。右側の女性はタイ人

しょうね」とも。滞在中は一度も褒められなかったKさんからの言葉は、ことさらに胸に響きました。

これまで随分と沢山の人の助けられてきました。「大丈夫よ」と励ましてくれた仲間。人の道を教えてくれた先輩。何度救われたことか。人と繋がり、交わることで学びあえ、成長できる事を組織の中で知った私でした。今は「個」の時代と言われ、若者の組織離れが問題になっています。私たちの世代が「家庭」、そして「地域」と繋がること、「結いの精神」の大切さをもう一つ若い世代へ発信していきたいと思っています。

また、世の中は男女共同参画社会実現に向けて確実に動いています。農村社会ではその速度は速くはありませんがチャンスは巡ってきます。私のタイ派遣の経験がそうでした。その流れを加速させるためには女性の意識を変えることが近道だと思っています。チャンスは逃さない。必ず掴む。「やれば出来る」の精神でいろんなことにチャレンジして欲しいと思っています。まずは人と繋がることから始めませんか。

※1 エクセル：表計算ソフト。

※2 パワーポイント：プレゼンテーション用ソフト。

●JA愛媛養豚経営者協議会第33回総会

『ふれ愛・媛ポーク』ブランドの拡大めざす

JA愛媛養豚経営者協議会は、6月5日、松山市のえひめ共済会館で第33回総会を開き、竹内日出男会長（JAにしようわ・留任）ほか役員体制と24年度事業計画を決めました。

24年度事業方針では、「ふれ愛・媛ポーク」の消費拡大に向け宣伝活動を実施するとともに、「系統養豚生産性向上プロジェクト班」を継続設置し、生産性や肉質の向上について調査研究するとともに、豚肉トレーサビリティシステムの構築に向け農場別生産実態のデータベース化、防疫管理の徹底、研修会開催による経営管理能力の向上に取り組むことを確認しました。

総会では、国民の食と暮らし、いのちを危機に陥れるTPP参加に断固反対する特別決議を採択。あいさつした竹内日出男会長は「TPP交渉参加は先送りされたが、国際化や飼料の高止まり、豚肉価格の低迷など、今後も厳しい状況が懸念される。会員が一致団結して、『ふれ愛・

媛ポーク』ブランドの拡大に取り組もう」と呼びかけました。

総会後は、今後の肉質向上対策につなげようと、「ふれ愛・媛ポーク」と他県産のブランド豚肉を試食し、色・味・肉質などを評価しました。

なお、総会に先立ち、23年度優秀会員として、安平儀男さん（JAひがしうわ）、富永治さん（JA愛媛たいき）、(株)多田ファーム（同）、せと風ファーム（JAえひめアイパックス(株)）が表彰されました。



●愛媛県肉牛生産者協議会24年度総会

伊予牛「絹の味」の販路拡大めざす～岡崎哲会長ほか新体制を選任

愛媛県肉牛生産者協議会は、6月8日、松山市のえひめ共済会館で平成24年度総会を開き、岡崎哲会長（JAひがしうわ・新任）はじめ24～25年度役員体制と24年度事業計画を決めました。

24年度事業方針では、安全・安心のアピールとともに、JAブランド・伊予牛「絹の味」の販路拡大の取り組みを進めることとし、関西地区の市場限定で新たに上位等級のサブブランドとして、伊予牛「絹の味」・「愛」ブランドを立ち上げます。神戸市場で関係者を集め発表会を開くほか、試食宣伝販売などを通じてブランドイメージ向上と販売拡大をめざします。また、繁殖農家と肉牛農家の相互連携と生産意欲を高めるため、婦人交流会を開くことにしています。

総会では、国民の食と暮らし、いのちを危機に陥れるTPP参加に断固反対する特別決議を採択しました。

あいさつした岡崎新会長は、「TPPや口蹄疫への対応など難しい時代だが、皆さんの協力で難局を乗り切っていきたい」と呼びかけました。

なお、総会に先立ち、23年度優良生産者とし

て、宮本正義さん（JAにしようわ）を表彰しました。

主な役員体制は次のとおり（敬称略。カッコ内はJA名）。

▽会長＝岡崎哲（ひがしうわ・新任）▽副会長＝新開忠（おちいまばり・新任）、大塚俊平（にしようわ・新任）▽監事＝高橋節雄（周桑・新任）、松本康良（松山市・新任）▽会計＝山下祥雄（えひめ中央・再任）



▲あいさつする岡崎会長

●愛媛県くり研究同志会45周年記念大会・総会

愛媛ブランドを確立し活力ある産地づくりを！

愛媛県くり研究同志会（会員2,279人・大野奉孝会長）は、6月6日、内子町の五十崎自治センターで、「活力ある産地づくりに挑戦しよう」をテーマに、24年度通常総会と創立45周年記念大会を開きました。

愛媛県の23年産栗の生産量は、1,580トン（前年比84%）で全国第3位だったものの、高齢化などにより面積・生産量とも減少傾向にあります。

こうした中、大会宣言では、生産者が生きがいを持って取り組める環境づくり、魅力ある産地づくりに向け、基本管理を徹底し高品質安定生産、積極的な宣伝活動による愛媛ブランドの確立に取り組むことを確認。また、国民の食とくらし、いのちを危機に陥れるTPP参加に断固反対する特別決議を採択しました。

24年度計画では、プロ意識を持ったくり栽培農家の育成、高品質果実の安定生産、消費者が求める安全・安心な果実の生産など、会員が自覚と責任を持ちながら産地活性化に取り組む。生産性向上対策のほか、庭先選別の徹底による品質向上、出荷計画の精度向上と計画出荷など販売強化対策を進める。

なお、23年産栗のJA全農えひめ扱い販売実

績は、447トン（前年比77%）、kg単価は過去10年で最も高い706円（前年比125%）。開花期の天候不順による着穂数の減少や梅雨時期の大雨の影響で、当初は予想を上回る大玉出荷となったものの、9月の台風による落穂被害などがあり出荷量が伸びず、全国的な不作と加工需要の逼迫により、期間を通じて高値で推移しました。

記念大会功労者表彰受賞者は、次のとおり（敬称略、カッコ内はJA名）。

▼全農愛媛県本部長賞＝松本武文（えひめ中央）、増岡英明（愛媛たいき）、兵頭昭英（ひがしうわ）、赤松保孝（えひめ南）▼愛媛県くり研究同志会長賞＝JAひがしうわ奥伊予特選栗審査委員会（代表者・佐々木朝雄）



●第18回 愛媛県JA-SSチェーン大会

安心・安全・快適なサービスで愛されるSSめざす

愛媛県JA-SSチェーン本部（メンバー39SS）は、6月8日、JA愛媛で第18回大会を開き、平成24年度の活動計画を決めました。

重点取組事項として、SS整備マスタープランに基づき老朽化SSの統廃合とセルフSS展開による事業体制の強化とともに、JA-SSブランド戦略の展開による競争力強化、油外収益による経営改善などに取り組むことを確認。大会決議では、選ばれ信頼されるSSをめざした取り組みと「安心・安全・快適」なサービスの確立等を決議しました。

なお、優秀SSや従業員表彰も行われました。受賞者は次のとおりです（敬称略）。

【総合表彰】JA愛媛たいきサンライズ56SS、(株)JA東宇和サービスSS城川中央SS

【揮発油部門表彰】(株)JA東宇和サービスJASS-PORT宇和SS、JAえひめ南JASS-PORT津島SS

【新規客数拡大部門表彰】JAえひめ中央伊予セルフSS

【油外収益部門表彰】JA愛媛たいき川下SS、

(株)JA東宇和サービス野村中央SS

【SS従業員表彰】

▽SS所長＝福樹真嗣（愛媛たいきオズメッセセルフSS）、長岡雄一（えひめ南南宇和中央SS）

▽SS従業員＝徳本雅彦（松山市中央SS）、田中幹士（えひめ中央荏原SS）、木下琴美（愛媛たいきサンライズ56SS）、土居原里美（(株)JA東宇和サービス城川中央SS）、栗田智大（えひめ南南宇和中央SS）

【近代化SS特別表彰】

JA愛媛たいき内子セルフSS・長浜セルフSS、JAにしようJASS-PORTにしようSS



●第38回椎茸品評会表彰式・椎茸同志会第40回総会

成高王洋さんが4年連続最優秀賞受賞！～消費者との交流で安全・美味しさアピールめざす

愛媛県椎茸同志会主催の第38回椎茸品評会表彰式が、5月25日大洲市のJ A愛媛たいき本所で開かれ、最優秀賞（全農会長賞）に4年連続で成高王洋さん（J A愛媛たいき）が選ばれました。

今回は3 J Aから40点が出品され、同志会役員・きのこセンター・J A全農えひめの職員らが規格の統一状況や色・光沢、形状、乾燥の具合などを審査し、入賞15点が決まりました。

今年の春子は、3月上旬までの低温などにより、四国の作況は前年比85%とやや不作傾向で、中葉系が多く、後半は雨子が多く発生するなど、秀品が作りにくい環境の中で、出品数は前年の52点を下回りました。なお、今回の出品物は、6月14日に鳥取県で開かれる第45回全農乾椎茸品評会に出品されました。

品評会後には、愛媛県椎茸同志会の第40回総会が開かれ、成高王洋会長が、「震災による消費低迷が持ち直しつつあったが、4月20日に原木しいたけから放射性物質が検出された報道で一気に消費が止まるなど、風評が収まるまで販売環境は厳しい。消費者との交流を通じて安全・おいしさをアピールしていこう」と呼びかけま

した。

その他の主な入賞者は次の皆さん（敬称略・カッコ内はJ A名）。

▽優秀賞＝矢野欣一（愛媛たいき）、大塚幸男（ひがしうわ）▽1等賞＝久保勝利（愛媛たいき）、河内遼一（同）、和気重臣（同）、▽2等賞＝高橋茂行（ひがしうわ）、城戸秀俊（同）、瀧野正敏（同）▽3等賞＝岡中勝彦（ひがしうわ）、中村重清（同）、羽柴忠幸（愛媛たいき）



▲4年連続の最優秀賞に輝いた成高王洋さん

●名京阪神愛媛会と園芸販売部会の意見交換会

えひめ野菜の有利販売をめざし産地・市場関係者が意見交換

J A全農えひめ青果販売課は、5月21日松山市のJ A愛媛で、関西・名古屋・中国地区の野菜取引市場で組織している名京阪神愛媛会（会員市場17社・小仲克彦会長）と産地の意見交換会を開きました。

会議には、市場から20人、産地側から園芸販売部会メンバー（J Aの野菜販売担当部課長）など16人の計36人が出席。えひめ野菜の5割以上を名京阪神市場に出荷している中で、今後ともえひめ野菜の有利販売をめざし市場と産地が連携して取り組むことを確認するとともに、市場・産地側からそれぞれの情勢報告と要望を出し合いながら意見交換を行いました。

市場からは、愛媛の指定席確保に向けてロットの拡大や愛媛の顔の見える品目の増産、期間を通じた安定出荷、消費宣伝活動の充実などの要望が出されたほか、全国的にタバコ廃作に伴

い野菜が増産傾向の中で、「夏秋の果菜類については7月の海の日をポイントに販売強化に取り組む。ロットを固めて愛媛の有利販売に努めたい」などの取り組みが報告されました。

各J Aからは、生産・出荷状況や今後の動きを報告したほか、「産地が活性化する提案を期待している」「農家所得の向上に向けた取り組みを」等の要望が出されました。



●平成23年産里芋・山の芋出荷反省会

23年産里芋販売金額は前年比109%の3億4,241万円

J A 愛媛野菜生産者組織協議会と J A 全農 えひめ青果販売課は、6月11日、J A うま総合経済センターで、平成23年産里芋・山の芋出荷反省会と24年産の生産対策会を開きました。

23年産の里芋販売は、年明け以降は各産地とも残量が多く厳しい販売となり、特に今年2月の降雨で出荷が遅れたため4～5月は市場入荷量が前年より多く単価面では苦戦しましたが、シーズン全体として、愛媛産は数量が前年比119%の1,754トン、販売金額は前年比109%の3億4,241万円とまずまずの実績となりました。

市場からは、愛媛ブランドの「伊予美人」は食味や品質面で評価が高いことや知名度向上と売り場の指定席が確立されてきていることが報告されたほか、売り場確保とスムーズな販売に向けて、計画的な安定出荷体制の確立と的確な産地出荷情報の発信、年末需要対応の強化、降雨後や厳寒期の品質管理の徹底、消費宣伝活動の充実などの要望が出されました。

24年産里芋の生産対策では、里芋が5 J A で23年産比112%の94.6haの作付けを見込んでお

り、秀品率と反収の向上のほか、省力化に向けた全期マルチ栽培による面積拡大と安定出荷体制の確立に取り組みます。

山の芋については、23年産販売は数量前年比78%の130トン、金額では前年比76%の7,435万円。24年産については、他県産地や業者の動向・情報を適確に把握し、価格協定会の実施や優良系統の「やまじ王」の導入による増産に取り組むことにしています。



●愛媛県茶業振興協議会第41回総会

新茶まつりなどで県産茶の消費拡大

県内の茶主産4 J A で構成する愛媛県茶業振興協議会は、5月22日、松山市の J A 愛媛で第41回総会を開き、平成24年度の事業計画を決めました。

県内の茶栽培面積は127ha、荒茶生産量は約79t。J A 関係では、J A うま（新宮茶・富郷茶）、J A 松山市（久万茶）、J A ひがしうわ（宇和茶）、J A えひめ南（鬼北茶）が主産地です。

事業方針では、反収・茶質の向上を図るため老木茶樹の計画的更新や栽培講習会開催、茶市場動向調査、レインボーフェスティバルや産業文化まつりなどイベントでの試飲・即売会による消費宣伝、県産茶葉100%使用の緑茶飲料「愛媛の特煎茶」の消費拡大、生産・製造履歴の記帳運動の徹底などに取り組むことを確認しました。

なお、同協議会は、6月6日～8日の3日

間、松山空港2階出発ロビーで毎年恒例となった「新茶まつり」を開きました。新茶の香りに包まれた売り場では、期間中、モニターレディと主産地の J A 担当者が試飲販売やパンフレット配布を通じて、「えひめ茶」を県内外の方にアピールしました。



●第14回JAグリーンえひめ「フレッシュ市部会」総会 消費者との交流や情報発信等を進め売り場の活性化を図る

JAグリーンえひめ「フレッシュ市部会」(会員387人)は、5月22日、東温市中央公民館で第14回総会を開き、平成24年度の事業活動計画を決めました。

「フレッシュ市」の平成23年度の売上は、震災以降の景気の冷え込みや会員の高齢化、近隣競合店の出店等により、前年比92%の2億8,827万円と厳しい数字となりました。

こうした中、24年度は、安心・安全な商品の提供に加え、売り場の活性化を図るため、新会員の募集・拡大に取り組むほか、生産者のPOPを掲示し生産現場をイメージできる売り場づくりに取り組みます。また、各種研修会や部会活動を通じて生産意識の啓蒙と新たな品目づくりの推進、フレッシュ市祭り・れんげ祭り・収穫祭等のイベントで消費者とのコミュニケーションを深めるなど、情報提供の充実や新たなファンづくりを進めることにしています。

総会では、午後の品揃えを強化するため、集

荷・出荷を店舗が代行するサービスを始めることが報告されました。

フレッシュ市部会の藤井由紀枝会長は、「交流を通じて地域とともに歩んでいきたい。会員が1～2割の売り上げアップをめざし、作型の見直しや計画的な作付けに取り組み、活気ある直売所にしていこう」と呼びかけました。

なお、JAグリーンえひめでは、売り場のリニューアルを行い、7月14日から精肉・惣菜の対面販売コーナーを新設することになっています。



●「いよっくら」7周年感謝祭 「いよっくら」ならではの多彩なイベントで賑わう！

JAえひめアイパックス(株)ファーマーズマーケット「いよっくら」(伊予市下吾川)は、5月19日と20日の2日間、「7周年感謝祭」を開きました。

期間中は、いよっくらの店名にちなんで、1,456円以上お買い上げの方先着各500人(2日間で1,000人)に粗品をプレゼントしたほか、出荷会員参加による餅つき実演販売や各種商品の実演・試食販売を実施。同店ならではの企画として、JAえひめアイパックス(株)直営農場の「せと風ポーク」のセリ市、牛肉と豚肉などの炭火焼バーベキュー、黒毛和牛の焼肉丼300円(1日限定200食)など多彩なイベントを実施し、店内は大勢の人で賑わいました。

「いよっくら」では、今後も出荷会員参加によるふれあいイベントや食育活動、収穫祭など多彩なイベントを実施し、地域住民・消費者に店の魅力をアピールすることになっています。松田修店長は、「選ぶ楽しみ、探す楽しみ、新しい発見など、直売所の魅力を『いよっくら』で満喫してほしい」と話しています。



なんでもBOX

●第53回 愛媛県農協営農生活指導員会議総会

山中千之会長を選出。担い手の育成・支援に取り組む

愛媛県農協営農生活指導員会議は、5月31日、J A愛媛で第53回通常総会を開きました。総会では、退職や業務部署の変更などに伴う役員の補欠選任を行い、新たに山中千之会長（J Aえひめ中央）、三好典子副会長（J Aにしうわ）を選びました。

24年度事業計画では、担い手の育成・支援と営農指導機能の強化、組合員の活性化を図るため、①農用地有効活用の取組強化と地域農業戦略や営農指導強化策の策定・実践、②営農指導員の資質向上、③1人1研究を目標に自己研鑽、④集落営農の組織化・法人化等担い手づくり、⑤生活指導員の企画提案力の向上とニーズ把握

のための研修会開催、⑥J Aくらしの活動の活性化—を重点に取り組むことを確認しました。

また、TPP交渉参加阻止に向けた特別決議も満場一致で採択しました。



●第11回 JA愛媛園芸指導員会 総会

産地育成と生産拡大めざす

J A愛媛園芸指導員会は、5月31日、松山市のJ A愛媛で総会を開き、平成24年度の事業計画と24～25年度の役員体制を決めました。

24年度は、①生産振興対策に基づく具体的な産地育成・生産拡大、②土壌診断を活用した施肥設計や指導、適期防除など農業の環境保全機能を考慮した施肥防除技術体系の確立、③農業適正使用や生産履歴記帳の徹底と農業生産工程管理手法（GAP）の段階的な導入の検討など消費者に理解・支持される産地づくり、④肥料農業実用化試験・合理化圃場試験の実施と高度園芸生産技術実証圃の設定、⑤営農指導員の技術向上・平準化に取り組むことを確認しました。

24～25年度の役員改選が行われ、秋山雅志会長（J A西条・再任）以下の役員体制が決まりました。

主な役員は次のとおり（敬称略・カッコ内はJ A名）。

▽会長=秋山雅志（西条市・再任）、
▽副会長=酒井源雄（松山市・新任）、
大塚英浩（ひがしうわ・新任）▽監事=宮本吉博（えひめ中央・新任）、森敬造（愛媛たいき・新任）



●第12回 JA愛媛食糧指導員会 総会

需要に応じた生産販売対策を

J A愛媛食糧指導員会は、5月31日、J A愛媛別館で総会を開き、平成24年度の事業計画と24～25年度の役員体制を決めました。

24年度は、今まで以上に消費者重視、市場重視の考え方に立ち、品質向上対策や担い手対策、積極的な消費拡大運動の展開を進めます。①「売れる米づくり」に向け県内需要や用途別需要に応じた生産販売対策の実施と高温耐性品種栽培試験の実施、②はだか麦は需給のミスマッチに対応するため担い手を中心に作付け拡大と高品質麦の安定供給に向けた品種栽培試験実施や湿害対策の徹底、③大豆は実需者ニーズを踏まえた生産誘導と安定生産などに取り組むことを確認しました。

24～25年度の役員改選が行われ、竹岡壽男会長（J A愛媛たいき・再任）以下の役員体制が決まりました。

主な役員は次のとおり（敬称略・カッコ内はJ A名）。

▽会長=竹岡壽男（愛媛たいき・再任）
▽副会長=神野誠二（今治立花・新任）、大政真（松山市・再任）▽監事=長谷川稔（西条市・新任）、上甲博三（えひめ南・新任）



!! TAC® 私たちが TACです

JA 全農えひめ
営農振興課
県域 TAC

白石 雅之

産地振興に向け相互圃場研修開催

1. 相互圃場研修の目的

JA 全農えひめは、前年度に引き続き今年度も、各JAのTAC間の情報交換の場を提供しようと、相互圃場研修を実施します。

昨年は、カボチャ・絹皮なす・里芋・キュウリの4品目について、それぞれ県内のトップレベル（リーダー的な）の産地にTACが集まり、栽培面や産地振興の取り組みなどを学ぶとともに、意見交換を行いました。

現状、愛媛県内のTAC間の交流はそれほど密であるとは言えない中で、この研修はTACにとって貴重な情報収集・意見交換の場となり得ます。実際、県内JAのほとんどのTACは営農指導員の兼務で構成されているため、相互圃場研修では栽培面を含め技術的な意見交換が非常に活発に行われ

ています。愛媛県内のTACが一体となり、産地振興を図るためにもこの研修の意義は高いと考えています。

2. 現地圃場研修は迅速な対応で高評価

今年度第1回の相互圃場研修は、JA周桑のアスパラガスで実施しました。

JA周桑のアスパラガスは、昭和56年に部会を結成以来、平成14年度からは「緑のささやき」（商標登録）というオリジナルブランドで販売する西日本でも有数の産地です。ハウス栽培への統一や先進地研修を効果的に実施するなど、活発な部会活動により産地活性化を図っています。JA周桑TACの安倍担当の取り組み経過や状況報告は説得力のあるもので、

JAと部会との推進協力体制や取り組み内容は参加したTACに参考になったと思われます。

圃場研修は、反収量がJA周桑の平均を上回り、JA周桑のアスパラガス生産をけん引している生産者のハウスに向きました。

参加したTACは、先述のとおりほとんどが営農指導員であるため、栽培方法・栽培管理に関する質問が盛んに投げかけられ、活発な意見交換となりました。

「施肥のタイミングは？ 産地全体の課題は？」といったTACからの質問に対し、生産者と安倍

担当からの確な返答がありました。

また、JA全農えひめより肥料農薬・施設農住・品目の担当者も参加していたため、担い手からの「新しい薬剤や施設の情報を教えてほしい」といった質問にも即答することで、現場の課題・問題点への迅速な対応ができた点も有意義な研修であったと思われます。

その上、アスパラガスのハウスの栽培の課題である病害虫の対応について、JA全農えひめの肥料農薬担当が効果的な農薬の情報をその場で提供することができました。

3. 所感

愛媛県内のアスパラガス栽培面積の6割を占めるJA周桑管内での圃場研修ということで、各JAのTACにとって、大変貴重な情報収集の機会となりました。愛媛県内TACが一体となって産地活性化を図るためにも、本研修は大変有用であり、今後も実施したいと考えています。



▲研修風景

統計BOX

愛媛県のみかん収穫量は、前回の表年の21年産に比べ6%減少 — 平成23年産みかんの結果樹面積、収穫量及び出荷量から —

愛 媛県産みかんは、多様な柑橘へ切り替えが進む中、平成23年産の収穫量は15万tと全国第2位となっています。そこで今回は、愛媛県を代表する果樹の「みかん」の生産推移について見ていきます。

みかんの結果樹面積、収穫量は減少

平成23年産愛媛県のみかんの結果樹面積は6,580haで、22年産に比べて140ha(2%)減少しました。これは、生産者の高齢化に伴う労働力不足から廃園が増加したことに加え、優良品種や中晩柑類への転換等によるものです。収穫量は15万t、出荷量は13万7,700tで、前回表年である21年産に比べてそれぞれ9,400t(6%)、7,600t(5%)減少しました。これは、10a当たり収量が21年産並みであったことから、結果樹面積の減少がそのまま収穫量の減少につながったためです(図1)。

優良品目・品種への転換が進展

みかん以外にも果実については、生産者の所得の維持・向上を図るとともに、消費者ニーズに応えることが産地の販売戦略上重要な課題

となっており、全国で果樹経営支援対策事業における事業計画の承認を受けて付加価値の高い優良品目・品種へ転換した面積は、平成19年度から平成22年度までの4年間で2,110haに上っています(図2)。

また、みかんは、果実数が多くなる年(表年)と少なくなる年(裏年)とが交互に発生する現象(隔年結果)が顕著なため、その是正策として、JA等が中心となり、その年の傾向に応じた適切な摘果作業を徹底する

図1 みかんの結果樹面積及び収穫量の推移(愛媛県)

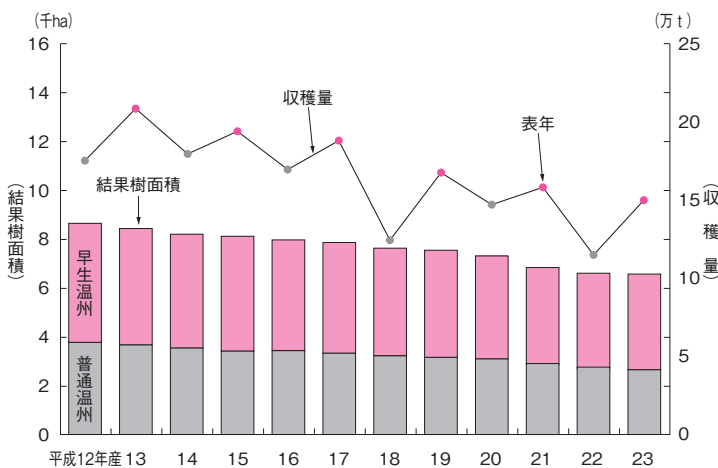
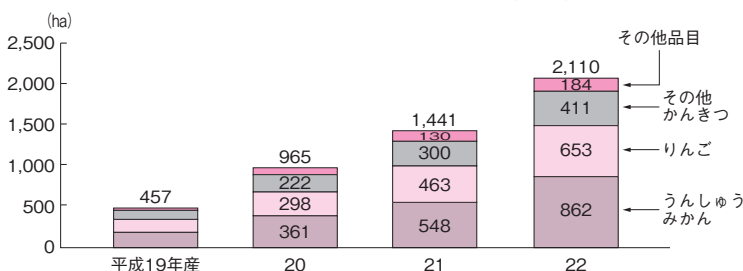


図2 果実の優良品目・品種への累積転換面積(全国)



資料：農林水産省調べ
注：果樹経営支援対策事業における事業計画の承認を受けた面積

など取組を推進しています。そのほか国の対策として、消費者への高品質果実の安定供給を進めるため、気象の影響等により一時的に出荷が集中する場合には、その一部を加工原料(ジュース等)に仕向ける対応等を支援しています(緊急需給調整特別対策事業)。

中国四国農政局
松山地域センター 農政推進グループ

JAふるさと自慢

直売所めぐり

vol.139



インフォメーション
太陽市

- TEL/089-913-7707
- 営/8:30~19:00
- 休/年中無休(年末年始は除く)
- 住/松山市湊町8丁目120-1
- URL/http://www.ja-e-chuo.or.jp/public_html/ohisama/ohisama_index.html

おひさまいち

太陽市 ~JAえひめ中央~

おひさまの笑顔が育てた野菜たち。モリモリ食べて元気に行こう!



▲店内は間仕切りがなく、平台に並ぶ陳列は品目単位で行儀よく、それぞれに一目でわかる品目名のポップを掲げる。広いながらも、目当ての商品がすぐに見つかる

松

山市のだ真ん中に 大型の直売所が誕生

JR松山駅から南へ徒歩10分の直売所「太陽市」が6月3日に新装オープンしました。
新築の店舗は、面積が以前の3倍超の約300坪、出荷会員は2倍増の約800人。地場産の精肉・鮮魚を扱い、JA女性部手づくりの惣菜コーナー、ジェラートコーナーも新設。6月3日には1万人が来店するなど、オープン後の来店者数は当初の予想を上回っています。幅広い年齢層に親しまれる地域の拠点として、年間来店客数は従来の27万人から55万人に、約3億円だった年間売り上げは今年度10億円を目指しています。

イベントカレンダー

各ブロックの出荷会員が特産品をPRする
ブロック別イベントが毎月行われます。



▲駐車場は140台収容。曲線を描く屋根の上、マスコットキャラクターの「ひなたくん」と「まるえちゃん」が笑顔でお出迎え



乗松 淳二さん
(太陽市 店長)

「県内産の安全な食材を安心して食べてほしい」という思いがカタチになりました。お買い物は太陽市でまこと済ませることができるよう、調味料や一般食品も揃っています」



【ピンポイントmap】



【広域map】

野菜選びは

とっても楽しい

「太陽市」では、毎日商品を持ち込むのが大変な山間部の出荷会員のため、トラック便を走らせるなど集荷体制を確立。松山市中心部に居ながらにして、島嶼部から中山間地まで、J-A管内の中予地域3市2町の新鮮な農産物が手に入ります。例えば、興居島や中島のミカン、砥部町七折地区の梅と梅加工品、北条地区からは伝統野菜の庄大根、伊台地区の朝掘りタケノコ、東温市三内の米、中山の栗、小田の肉厚椎茸など。これからの季節はキュウリやトマト・ピーマン・ナス・ゴーヤなどの夏野菜、マンゴー・スイカ・桃・ブドウ・イチジクと、フルーツも盛りだくさんです。

農産物にひと手間加えた惣菜や加工品では、餅や巻き寿司などの定番商品から、おでん・タコ飯・鯛飯・佃煮・ヒガシヤマ、シフォンケーキに蒸しパン・かき餅などの菓子類、ジャム、コンニャク、乾ヒジキetc.。商品の数だけ愛情もいっぱい詰まっています。



▲七折梅商品



▲野菜のボリュームに圧倒されそう！ トマトの列、レタスの列と、一区画全部が1品目の野菜で埋め尽くされている。朝一番はもっと野菜が山積みだ



▲キャツ、キャベツの大量

▼鉢花コーナーはまるで花畑のよう。切り花、シキビも品数豊富



▶太陽市のオリジナル商品。食べ比べてみたい3種のドレッシング。県内産の豚と雌鶏使用の「おひさまウインナー」も絶品



乗松 ゆかりさん
(太陽市 スタッフ)

「水分90%のみずみずしいスイカをたくさん食べて、猛暑を乗り切りましょう！ 太陽市も応援しています」



▲安心の対面販売もある精肉コーナー



▲地魚が並ぶ鮮魚コーナー

買い物帰りは

ひなたのカフェ

休憩スポット「Hinata Cafe」ではここでしか味わえない紅まどんなのジェラートをはじめ、伊予柑、マンゴー、豆腐など、10種以上のジェラートが並んでいます。「媛たまアイス」はジェラートの温泉卵かけ、混ぜて食べればクセになりそうな新食感のスイーツです。



▲おばあちゃんもお母さんも、みんな大好きなジェラートで憩おう

愛妻たちの「愛彩広場」

太陽市の新鮮な食材を仕入れて、安心・安全・おいしく・安く・栄養バランス満点のホンモノの「地産地消」の惣菜や弁当を提供したい！ J-Aえひめ中央女性部の思いが詰まった「愛彩広場」です。すでにリピーターも多いというずっしり重いコロッケや、米油でカラリと揚げたサクサク唐揚げ、サバ煮、肉じゃが、酢の物など。欲しい分量だけ求められる量り売りもうれしいですね。



▲壁1枚隔てた調理場で作って、そのまま店頭へ運ばれる。昼は弁当、夕方は惣菜類を中心に、「できたて」が飛びように売っていく

（松山市・北原 弓愛さん）

(松前町・田中 克也さん)

3月からパソコン教室に通い始めました。まず、文字入力から始め、絵を入れ、案内状など、ワー・ドを使いこなせるように頑張っています。自分のモノになるのはいつのことになるのやら……ですが、若い人たちの中でいろいろな話をして活力をもらっています。

(八幡浜市・河野 純子さん)

酒井	祥子さん	(西条市)	中平	寛子さん	(松山市)
矢野	吉信さん	(大洲市)	高見志保美さん		(今治市)
八木セツ子さん	(今治市)		阿部	達郎さん	(今治市)
亀田	均さん	(伊予市)	河野	純子さん	(八幡浜市)
池田奈緒美さん	(松山市)		安岡	光代さん	(西予市)

20



NOW NOW

COOKING

今月の素材

大葉



清涼感を添える料理の名脇役は
しっかり取りたい主役級の栄養価

▶ (右) 大葉の衣の揚げ物、(中) 大葉味噌漬け、(左) 長芋とキュウリの大葉マヨネーズかけ



指導／学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大西 望先生

長芋とキュウリの大葉マヨネーズかけ

〈材料〉	※ 1人あたり約104kcal
大葉	20枚
マヨネーズ	50 g
塩	適量
コショウ	適量
キュウリ	1本
長芋	10cm分
ピンクペッパー	適量

〈作り方〉

- ① 大葉は粗く刻み、ミルミキサー (またはフードプロセッサー) にかける。マヨネーズと合わせ、塩・コショウを加える。
- ② 皮をむいた長芋とキュウリを拍子木切りにする。
- ③ ②に①をかけ、ピンクペッパーを散らす。

※野菜は好みに合わせ、チョイスしてもよい。

大葉味噌漬け

〈材料・4人分〉	※ 1人あたり約52kcal
大葉	50枚
味噌	大さじ5
ニンニク	10 g
④ 生姜	30 g
ゴマ油	大さじ3
豆板醤	小さじ1

〈作り方〉

- ① ④を合わせて、味噌ペーストにする。
- ② 密閉容器に大葉を敷き、①を塗る。
- ③ さらに大葉を敷き、①を塗り、何層にも重ねていく。
- ④ そのまま冷蔵庫で保存し、1週間ほど寝かせれば食べ頃となる。

大葉の衣の揚げ物

〈材料・4人分〉	※ 1人あたり約95kcal
鶏肉・ささみ	4本
大葉	80枚
ゴマ	大さじ1
小麦粉	大さじ3
水	大さじ3
塩	適量
コショウ	適量
油	適量

〈作り方〉

- ① ささみは筋をとり、そぎ切り。塩・コショウを振る。
- ② 大葉は3mm幅の千切りにし、ゴマと合わせておく。
- ③ 小麦粉を水で溶き、①をくぐらせ、②をまぶしつける。
- ④ ③を170℃の油で揚げる。

好評発売中 伯方塩業(株)とのコラボ商品 POM 塩と夏みかん 500mlペット



【果汁10%未満／希望小売価格140円 (税抜)】

『伯方の塩と瀬戸内で育った夏みかんを使用』

- ①伯方の塩と瀬戸内産の夏みかんを使用した熱中対策にぴったりの飲料です。
- ②体液とほぼ等しい浸透圧に仕上げたアイソトニックタイプの飲料です。
- ③カロリーが気になる人もゴクゴク飲みやすい、カロリーオフ仕上げです。
- ④安心の原料で、お子様にも美味しく飲んでいただけます。



〒791-8603 松山市安城寺町478番地 TEL:089-923-1500 FAX:089-924-0304
http://www.ehime-inryo.co.jp (通販専用)http://www.pom-j.com



環境に配慮した植物油インキを使用しています。



道後温泉で 伊予牛「絹の味」食す。

伊予牛「絹の味」で暑い夏を乗り切ろう!!



すき焼 + しゃぶしゃぶ

2つの味を食べ比べして楽しめます!!

伊予牛「絹の味」

愛媛の温暖でおだやかな気候風土のもと、
こだわりの飼育法で、丹精込めて育てられる
伊予牛「絹の味」。やわらかく、まろやかな舌ざわり。
牛肉本来の、深く、繊細な旨味が味わえます。



伊予牛
絹の味



—愛媛の農林水産物統一キャッチフレーズ—
「愛媛県には、愛がある。」
愛媛県の県名である「愛」の文字と生産者の
慈しみが実ったものとして、県産農林水産物を
とらえ、「愛がある」と表現しています。「愛」に
は、真心や心情とも言える暖かみ、そして愛媛
そのものが含まれています。このキャッチフレーズ
は、全国公募の中から平成14年2月に決定し
ました。書には、詩人坂村信民先生の愛媛を受
ける暖かい思いが込められています。

- 協力／JA全農えひめ 農協観光協定旅館連盟愛媛県支部
- 後援／えひめ愛フード推進機構 JA愛媛中央会 JA愛媛信連 JA共済連愛媛 JA愛媛厚生連 愛媛県酪連 JA愛媛施設連
JAうま JA新居浜市 JA西条 JA周桑 JAおちいまばり JA今治立花 JA松山市 JAえひめ中央 JA愛媛たいき
JAにしよう JAひがしよう JAえひめ南

この冊子は再生紙を使用しています。